

# 初の国立進出! 筑スポ

## 走って! 蹴って! つかんだ!



# ラグビー部 大学選手権 ベスト4

ラグビー部が国立大学として新たな扉を開いた。年をまたいで開催されていた全国大学ラグビーフットボール選手権大会(以下、大学選手権)で国立大初のベスト4に進出。正月2日には国立大学として初めてとなる、国立競技場での準決勝、帝京大戦に臨んだ。対抗戦から大学選手権まで、今シーズンのラグビー部の活躍を、部員とともに振り返った。

9月から行われていた関東大学対抗戦Aでは、早稲田大、明治大、と並んで2位で終了。その後、大学選手権のための順位付けでは得点差などでこのリーグ4位となり、12月中旬からの大学選手権に臨んだ。対抗戦からの好調を維持していた本学は、関東大学リーグ2位から出場した東海大を1回戦(22/19)で、対抗戦3位出場の明治大を2回戦(11/9)でそれぞれ下し、準決勝帝京大戦へと駒を進めた。実は、東海大は2年前の大学選手権1回戦で、明治大は今年度の対抗戦初戦で敗れた相手であり、この2試合の勝利はともに過去の雪辱を果たした格好となった。準決勝の相手帝京大も本学や明治大と同じ対抗戦に属しており、12月3日に行われた試合では0/11で敗戦している。帝京大はFWに外国人選手や大型の選手をそろえ、FWで押し切って試合を決める作戦でここまで勝ち進んできた。対して本学は、彦坂匡克選手(体育3年、大阪・春日丘高)、竹中祥選手(体育1年、神奈川・桐蔭学園)の両ウィングをはじめとする、BK陣に展開し走り勝ち試合を得意としてきただけに、帝京大はやりにくい相手でもある。

そして決勝の1月2日、国立競技場、たくさんの本学学生やOB、教員、紫峰会役員が見守る前にライトブルーのユニフォームが姿を現した。キックオフ直後から帝京大は自慢のFW陣が力を見せつけ、本学自陣前で両校FW陣による攻防は、手に汗握る展開となった。前半40分は、帝京大の強力FW陣を前に本学は持ち味の展開するラグビ

1ができなかった。後半になり、本学は試合のペースをつかめたかのように見えた。BK陣にボールを展開し、大きくゲインする場面も見られた。しかし所要所でのミスや、帝京大の強力なディフェンスにつぶされてしまい、ゴールラインが遠い。スクラムでも帝京大に圧倒された。なかなか本来の力を発揮できないままに試合終了のホーンが鳴り、国立大として初めて挑んだ国立の舞台は幕を閉じた。結果は3/29。対抗戦に引き続き帝京大の圧勝だった。この試合を振り返って内田啓介選手(体育2年、京都・伏見工業高)は「12月3日の帝京大戦のイメージを持って準備してきた。でも、この日の帝京大はその時よりも強くなっていた。また経験値も違っていて、帝京大には焦りがなかった。どんな試合でも筑波スタイルを発揮できるようにしないとイケない」と話した。

「今年を『最初の年』にしたい。実際、私立に油断があった年だった」と振り返るのは、崎野諒太選手(社工4年、福岡・小倉高)だ。近年、竹中選手や彦坂匡克選手など高学校やセvens日本代表に選出されるようなレベルの有望選手が私立強豪校ではなく本学を選ぶことが増えてきているという。この傾向はしばらく続くと思われる。すでに来年度もインターハイや花園で活躍した選手が入学予定だ。強豪私立大と決定的に違う点は、「ラグビーにける時間や練習量が少ないこと」と語るのは今年度主将を務めた村上大記選手(体育4年、長崎北陽台高)だ。早稲田大や明治大などの強豪校では、全ての部員は寮で暮らし、食事も支給されるため、ラグビーにける時間や練習量は必然的に多くなる。しかし、本学では部員は皆一人暮らし。食事は自己生活のことは全て自分自身でやらなければならない。(大庭夏海)

今シーズンを振り返って今シーズン、ラグビー部はシーズン開幕当初から好調を維持し続けた。この好調の背景には何があったのだろうか。内田選手は「考え方が変わった」と言う。「去年も優勝は目標だった。でも今年は、練習中いつでも声を出して『優勝を意識し続けていた』。その結果が今シーズンの好成績につながった。また、1年生ながらシーズンを通して試合に出場、本学の勝利に数多く貢献した竹中選手は「新しいラグビーのスタイルになれるのが大変な1年だったけれど、先輩達がリードしてくれたおかげでいろいろなことを学べた」と振り返った。その筑波

スタイルに適應し、早稲田大、慶応大、東海と強豪私立大を次々に撃破した今シーズンだった。春にインターハイをしたとき、竹中選手が筑波に入学しようと思ったきっかけを聞いた。「強豪私立に勝ちたい。常に上にいるチームではなく、チャレンジャーでいたい」と彼は話していた。しかし、1年目にしてその強豪私立大を大方倒してしまおうとした。『早稲田大に勝ったときの先輩達の喜ぶ様子が印象に残っている。あの試合は本当に勝って良かった』と今でも思っている」と振り返った。

### 結果一覧

- 関東大学対抗戦A
- 11月19日 ○vs日体大(39-3)
  - 12月3日 ●vs帝京大(0-11)
- 大学選手権
- 12月18日 ○vs東海大(22-19)
  - 12月25日 ○vs明治大(11-9)
  - 1月2日 ●vs帝京大(3-29)



和気あいあいとした雰囲気です今シーズンを振り返るラグビー部員たち。左から、内田選手、竹中選手、崎野選手、村上選手

目次

- 2面 2011年度体育会賞
- 3面 卒業生特集
- 4面 注目選手
- 5面 女バス
- 6面 全日本選手権など

**筑波スポーツ**

平成24年2月20日(月) 第147号

題字:中山雅史氏  
(コンサドーレ札幌・蹴球部OB)

男子バレーボール部



2011年度  
全日本バレーボール大学東西選抜優勝大会  
優勝

剣道部



第30回記念  
全日本女子学生剣道優勝大会 1位



第59回  
全日本学生剣道優勝大会 1位

陸上部



前田 和香  
天皇賜杯第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 三段跳び 1位



大崎 かな  
2011日本ジュニア・ユース陸上選手権ハンマー投げ 1位



天皇賜杯第80回  
日本学生陸上競技対校選手権大会  
女子総合 1位



中村 康宏  
天皇賜杯第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 800m 1位



高橋 亜弓  
天皇賜杯第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 円盤投げ 1位



竹原 史恵  
天皇賜杯第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 7種競技 1位  
第19回アジア陸上競技選手権兵庫・神戸大会 7種競技 2位



仲田 愛  
2011日本学生競技個人選手権棒高跳び 1位



戸邊 直人  
第95回日本陸上競技選手権大会走り高跳び 1位

2011年度



水泳部



棚村 克行  
アジア競技大会(水球) 3位



山田 拓朗  
広州2010アジアパラ競技大会  
400m自由形 1位  
100mバタフライ 2位  
100m自由形 2位  
200m個人メドレー 2位  
PAN PACIFIC PARA-SWIMMING CHAMPIONSHIPS  
50m自由形 2位  
100m自由形 3位  
100mバタフライ 3位  
100m平泳ぎ 2位

カヌークラブ



小野 裕佳  
平成23年度日本カヌースプリント選手権 カヤックシングル1000m 1位  
同大会 カヤックシングル200m 1位  
第47回全日本学生カヌー選手権大会 カヤックシングル500m 1位  
仲摩 千陽・小野 裕佳 田畑 薫・中野 友貴  
第47回全日本学生カヌー選手権大会 女子カヤックシングル500m×4R 1位  
小野 裕佳・中野 友貴  
第47回全日本カヌー選手権大会 女子カヤックペア500m 1位

卓球部



団体奨励賞

団体奨励賞は本年度、最も運営の優れていた団体に贈られる賞です。

### ラグビー部



**竹中 祥**  
ARFU アジアセブンズシリーズボルネオ大会  
7人制 1位  
ラグビー セブンズフェスティバル2011  
7人制 1位



**彦坂 匡克**  
ARFU アジアセブンズシリーズボルネオ大会  
7人制 1位

### 硬式庭球部



**石津 幸恵**  
第26回ユニバーシアード(テニス) 女子団体2位  
カンガルーカップ 女子個人1位  
メイワサンピア新潟女子国際テニス 女子個人2位  
\$25.000Pattaya2011 女子個人2位

### 蹴球部



**谷口 彰吾・赤崎 秀平  
瀬沼 優司・八反田 康平**  
第26回ユニバーシアード(男子サッカー) 1位

### 柔道部



**遠藤 宏美**  
平成23年全国日本学生女子柔道体重別  
選手権大会(48kg級) 1位  
2011年アジア柔道選手権大会(48kg級) 1位  
世界ジュニア柔道選手権大会(48kg級) 1位



**小倉 武蔵**  
平成23年全国日本学生柔道体重別選手権大会  
(66kg級) 1位



**西山 大希**  
2011年世界柔道選手権大会(90kg級) 2位  
柔道グランドスラム・モスクワ大会(90kg級) 2位  
柔道グランドスラム・パリ大会(90kg級) 1位  
2011年アジア柔道選手権大会(90kg級) 1位  
柔道ワールドカップ・ブダペスト大会(90kg級) 1位



**緒方 亜香里**  
2011年世界柔道選手権大会(78kg級) 2位  
柔道グランドスラム・モスクワ大会(78kg級) 1位  
柔道2010グランドスラム・東京(78kg級) 3位



**西山 雄希**  
柔道グランプリ・デュッセルドルフ大会  
(78kg級) 3位  
柔道2010グランドスラム・東京(78kg級) 2位



**森下 純平**  
2011年アジア柔道世界選手権大会(66kg級) 1位  
柔道グランドスラム・パリ大会(66kg級) 1位  
柔道ワールドカップ・ブダペスト大会(66kg級) 1位

### 体操部

World Championships Wheel  
Gymnastics 2011  
直転 3位・跳躍 2位・個人総合 3位  
全日本ライト競技選手権2010  
個人総合 1位・種目別跳躍 1位



**田村 元延**

全日本学生ライト競技選手権2011  
女子総合 1位  
種目別女子  
斜転 1位・跳躍 1位・直転 1位



**堀口 文**

全日本ライト競技選手権2010  
個人総合 1位・種目別直転 1位



**堀場 みのり**

ススキワールドカップ2011  
第22回世界ラトロピック選手権大会  
男子個人 3位  
ススキジャンパニック2011  
第28回全日本エアロビック選手権大会  
男子シングル 1位



**諏訪部 和也**



**檜皮 貴子**  
World Championships Wheel  
Gymnastics 2011 斜転 3位



**高橋 靖彦**  
World Championships Wheel  
Gymnastics 2011 種目別直転 1位



**安高 啓貴**  
全日本学生ライト競技選手権2011  
種目別男子直転 1位

# 体育会賞



**古谷 旧**  
古谷 旧委員長

今年度の体育会執行委員会は様々な問題に直面しましたが、全員が一丸となり乗り越えてきました。例えば、1、2年生が多く、また部に所属している者が多かったため、会議に人が集まらなかったという事態が起こりましたが、開始時間を遅らせ短時間集中で会議を行ったり、はやく集まる人で話すことのできる内容を進めておいたり、工夫をして対処しました。また、震災で施設が使用できないときは施設局が団体同士の話し合いの仲介に入り、双方にとって良い方向に進むように努力しました。その他にもいろいろ大変なことがあり、授業と部活とバイトなど忙しい中で執行委員をやった良かったと感じた出来事がありました。それは、多くの部が良い成績を取ったことです。勝ったから、優勝したからという訳ではありません。自分たちは見えない裏舞台で仕事をしています。団体からは存在意義を問われ、学校からは義務を課せられ、本当にやる意味があるのかとさえ感じることもありますが、しかし、体育会構成員のみならず、笑顔を見て、みんなの達成感を感じることができると、なぜ自分たちがこのようにうれしく感じているのか、喜んでくれる表情や頑張っている姿をみると、少しでも助けになっていると思いが、すべてが団体のみんなに、特に素晴らしい成績を

## 体育会委員長挨拶

新



**深山 新**  
深山 新委員長

こんにちは。この度、体育会第36代執行委員委員長を務めることになりました深山 新です。体育専門学群3年で、蹴球部に所属しています。3年連続で蹴球部が委員長を務められるということで先陣方を超えられるのかという不安もありますが、私は私らしく頑張っていきたいと思っております。さて、早速ですがみなさんは体育会のことを存じでしょうか？聞いたことのあるけど良く知らないという方もいると思います。そんな方のために、簡単にですが説明をします。

体育会とは大学から正式に認められた体育系課外活動団体によって構成された組織です。現在部会45団体、同好会11団体、そして医学支部からなり、構成員は3000人にも上ります。全国大会などで活躍する部会だけでなく、初心者でも気軽に入ることができ、同好会、医学支部が同じ体育会内にあるのは、全国の

大学を見ても珍しく、筑波大学体育会の大きな特色だと言えると思います。体育会には筑波大学における体育の普及と向上をはかるという目的があり、大学にある体育施設を多くの学生に使ってもらうという理由から、こういった組織になっているのだと考えています。

そんな多くの団体が所属している体育会ですが、それぞれの団体が活動をスムーズに行えるように支えているのが、体育会執行委員になります。委員長以下、副委員長、幹事として施設局、財務局など11の局があります。主な業務は施設の調整、お金の管理、大学との連絡役などを行って、また、なにかありましたら体育会サークル館2階の体育会執行委員会室までお越しください。

また、筑波大学には体育会のように学生自治の組織がたくさん存在します。例えば全代会や文化系サークル連合会、

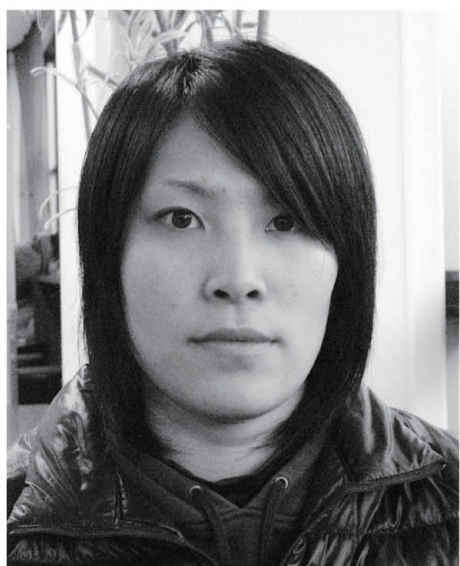
芸術系サークル連合会などです。そのような組織の代表者が集まって話をする機会があり、それぞれの組織の問題点や考えがあつて、それらを聞いたのは非常に有意義なことでした。今年度は、そういった他の学生組織とも協力しながら活動していきたいと考えています。

まだまだ未熟な部分もありますが、少しでも筑波大学体育会のために尽力してまいります。まずはしっかりと体育会とはどういうものなのかを理解し、それを発信していきたいと思っております。1年間どうぞよろしくお願いたします。

2011年度

卒業生特集

剣道部女子の元主将三苦...

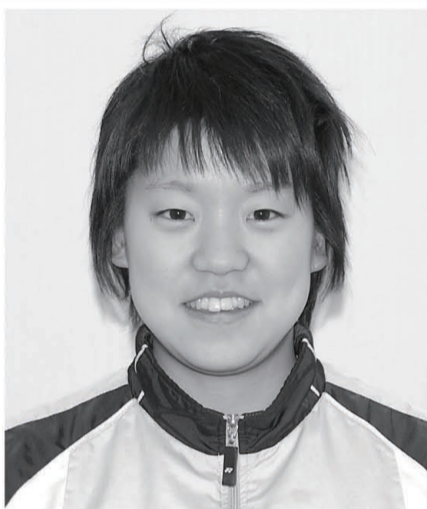


剣道部

(三苦 冨選手) 体育4年、大分・日田高

合があった。でもこれからは...

奥井智菜美選手 体育4年、富山・高西高



バドミントン部

(奥井 智菜美選手)

体育4年、富山・高西高

奥井智菜美選手 体育4年、富山・高西高は、バドミントン部に所属...

山崎まり選手 体育4年、北海道・札幌藻岩高



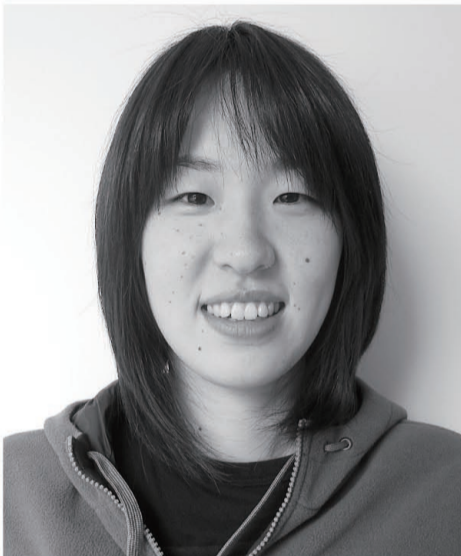
硬式野球部

(山崎 まり選手)

体育4年、北海道・札幌藻岩高

山崎まり選手 体育4年、北海道・札幌藻岩高は、この4年間、硬式野球部で毎日野球を打ってきた...

「学」、この一文字を筑波大で過ごした4年間を表現した、高橋那依選手...



バレーボール部

(高橋 那依選手)

体育4年、東京・八王子実践高

学校から本学へ入学した高橋選手。そんな高橋選手が4年間で一番印象に残っていることは平成21年度秋季リーグ戦での日本一に輝いたことだ...

活だった。先輩たちは「人間としても信頼でき、尊敬できる人が多く、特に1、2年生の頃は良い衝撃をたくさん受けたという。3、4年生になると立場も大きく変わり、チームのことを考えることを学んだ」という。同期の4年生は野球に熱い人が多く、支え合う人が多かった。先輩の間で話された言葉が、彼女自身も「大学生活を通して視野が広がった」と成長を感じてきた。

トヨタ自動車へと就職。今後バレーボールを続けていく。本紙で度々取材をさせて頂いた高橋選手。とても明るい方で、取材も終始笑いの絶えない楽しい取材となった。しかし、そのような取材の中でも高橋選手の強さをひしひしと感じた。今まで続けてきたバレーボール中心の生活を捨て、あえて仕事とバレーボールの両立を選んだ。きつと、その生活を選択できたのは、本学での経験や高橋選手自身の強さがあったからだろう。高橋選手が本学で過ごした4年間を学という一文字で表現したが、私も今回の取材で多くのことを学んだ。目標を設定し、何事も諦めずに頑張ること。忘れてしまいがちなこのことを教えて頂いた高橋選手に本当に感謝したい。高橋選手から教えて頂いたことを大切に大学生活を楽しむ高橋選手をはじめとした先輩方への敬意と感謝を込めて、高橋選手を応援する。是非とも目標を持って頑張ってください。(小峰 朱理菜)

# Pick up Player!



緒方 亜香里選手  
(体育3年、熊本阿蘇高)

### 柔道漬けの毎日

緒方亜香里選手(体育3年)

### 飛躍の一年

緒方選手にとって2011年は大活躍の一年となった。オリンピックの年。そんな世界の大舞台で大活躍を予感させてくれる選手を柔道部から紹介する。

### 五輪で最高の結果を

今年の最大目標は、夏季ロンドンオリンピックと言いつつ緒方選手。「オリンピックを強く意識し、そのためにあ

### 熊本・阿蘇高は柔道の発祥

熊本・阿蘇高は柔道の発祥地。日本の代表として世界中の試合で活躍を見せている。兄が柔道を習っていた影響で柔道の世界へ入り、高校時代は柔道漬けの厳しい環境の中で技術と精神力を培った。苦しい毎日だったが同時に技術の向上も身を以て実感できた。インターハイや国体での良績、世界への挑戦など大いに柔道界を沸かし、本人の希望通り本学へと進学を果たした。勉学と柔道の両立。合宿や国内外の試合出場のため、やむを得ず授業を欠席することもしばしばあるという。国内外から注目を浴びる選手だけに、学生生活における苦勞も多いようだ。

### 気持ちで負けない柔道

国内外問わず活躍を見せる緒方選手は自分の柔道スタイルを「気持ちを武器にして相手を恐れず前に出ていくこと」と自信たっぷりに語ってくれた。「相手が誰であって、積極的に組み手を取っていき、これが自分の柔道だ」と思っていると付け加えた。世界の大舞台で敢然と世界の強豪に組んでいき、得意技の内股と寝技で世界を制する場面を心から期待したい。



堀口 文選手  
(体育3年、秋田秋田南高)

### ラートという競技を存じ

ラートとは、2本の鉄の輪を平行につないだ器具を用いて行うスポーツだ。技の難易度や完成度の高さ、美しさを競う。今回は、全日本学生ラート競技選手権大会(以下インカレ)で史上初の4冠を達成した体操部主将、堀口文選手(体育3年、秋田・秋田南高)にお話を伺った。

### 日本代表に選出

ラート競技を始めてから数年後、世界選手権大会への切符を手に入れた。日本代表に選出されて嬉しかった。代表として恥じない演技をしたいと思った。と語る堀口選手。結果は残念ながら奮わなかった。他の国の選手は幼い時から練習を積んでおり、競技歴が長い。そのような中でラートを始めて数年という、競技歴の浅い自分と実力差を感じたという。世界選手権に出る前は代表に選出されること为目标だった。でも世界という舞台で戦ってみて、次こそは自分もこの場で活躍したいという感情が芽生えた。「世界選手権の出場は選手として一回り成長させてくれたようだ。

### 史上初のインカレ4冠達成

その後、昨年の9月に行われたインカレにて、直轄部門、斜轄部門、跳躍部門で1位となり、個人総合優勝、見事4冠を達成した。2年生の時に総合優勝を果たした堀口選手にとって、今大会は2連覇がかかっており、「勝ちにいつ勝てるのが本物」と強い気持ちで試合に臨んだ。また、「全日本代表として、まだ競技を始めて間もない選手に憧れてもらえるような演技がしたい」と語る。それがラートの普及にもつながると思った。と勝ちにいくだけでいいから、競技人口がまだまだ少ないラート界をリードしていく立場としても、今回は自分もこの場で活躍したいという感情が芽生えた。「世界選手権の出場は選手として一回り成長させてくれたようだ。



主な成績  
2011 世界選手権大会  
日本代表  
2011 全日本学生ラート競技選手権大会  
個人総合優勝

### 今後の目標

3月にチームカップという団体戦の世界大会が開催される。堀口選手もそのメンバーに選ばれている。その大会でメダルを獲得することが今の目標だ。また、大学卒業後は大学院の進学を希望し、2年後の世界選手権入賞を目指している。「練習の成果をいかに本番で出し切れるか重要。そうすれば必ず満足できる結果がついてくるはず。」今後の活躍に大いに期待だ。

今回取材を通して、堀口選手がラートを心から楽しんでいることを感じる事ができた。「日本代表とは無縁だった私を世界へと連れて行ってください」とラートは、自分の可能性を広げてくれた。もう一度見たら、と思われような演技をしていきたいとも語ってくれた。自身の更なる向上ももちろん、ラートの普及に尽力している堀口選手をこれからも応援したい。

### カヌークラブは、昨年の全

日本学生カヌー選手権大会(以下インカレ)で女子総合3位に入るなど、学生界屈指の実力を持つという団体である。そんなカヌークラブのメンバーとして、今季の主将を務める、小野栞佳選手(体育3年、秋田・本荘高)に今回インタビューを行った。

まず本学のカヌークラブは2つの部門に分かれている。小野選手が所属するのは、直線距離でのタイムを競う、高い競技性のあるスプリント部門。もう一つの部門は激流の中をカヌーで下るスラローム部門であり、それぞれが別々に活動を行っている。今回お話を伺ったのはスプリント部門について。現在6名が在籍しており、練習はオフである月曜日と日曜日の午後以外、土浦市の桜川で行っている。

練習や遠征の際の移動が、資金もかなり苦労している点だと言いが、その一方で「とても仲が良い」と小野選手も言うように、持ち前のチームワークで日頃の苦労は乗り越えていくそう。

スプリント部門の部員は、小さいときからカヌー競技に関わっている経験者揃い。高校時代も含めて全国大会で活躍した選手ばかりで、小野選手もアジアカヌースプリント選手権での優勝や、日本カヌースプリント選手権優勝等の実績を持っている。現在チームは、「インカレで総合優勝」するという目標を掲げて練習に取り組んでいるという。特に意識していることは、「一人ひとりの力を伸ばしていく」ということだそう。これに因って小野選手は、「カヌーはたとえ団体戦であっても、結局は個人の順位によってついた点数の合計で競われる。そのため、一人ひとりが強くなると団体戦の結果も伸びる」と語り、「調性」を伸ばすことが重要だ。小野選手はインカレ制覇に向けたキーワードとして「協調性」という言葉を挙げた。団体戦において最も高い得点が付けられ、重要な位置を占めているのがK4という4人乗りのカヌーのレースであるが、前回のインカレでは、この競技で4位にとどまった。そしてこの結果が総合優勝を逃すきっかけとなった。

このK4という競技のポイントとして小野選手が、「二人ひとりの力と、4人の間をしっかりとることが必要」と話す通り、前述した目標である、「一人ひとりの力の強化」だけでは結果が出せない競技である。そのため、個性と協調性、どちらも伸ばしていかないと今後の意識しながら練習を重ねていくそう。

カヌークラブ・スプリント部門としての目標はインカレ総合優勝であったが、小野選手自身の目標は、カヌー競技で世界で活躍することだ。と語られているけれど、国を挙げて強化されているカヌーという競技を多くの人に知ってもらい、もっと注目して欲しいというのが小野選手の願いであるそう。

## カヌークラブ サークルR 医学バドミントン部

### カヌークラブ

本学体育会医学支部から、医学バドミントン部(以下医学バド)を紹介する。医学バドは80人を超える、規模の大きな団体だ。インターハイ出場者から大学入学後に始めた初心者まで、技術レベルの差も大きい。医学部生以外や他大学の学生も在籍する。主要な大会としては、医学部医学科の学生のみが参加できる東日本医科学生総合体育大会や、看護・医療科生が参加できる関東コンメディカルリーグがある。

### サークルR

週3回の練習と1回の自由練習にはほとんどの部員が参加する。なかには、実習後、1時間しか打てなくても来る人もいたり、練習への意識は高い。

### 医学バドミントン部

医バド主将の戸谷直樹選手(医学2年、長野・大町高)にお話をうかがった。現在、キャプテンとして練習メニューを作成しているという。「練習の雰囲気は、その年のキャプテンによって個性が出ます。今年は、厳しいけれど楽しい練習を目指しています。一人でもやたらきついでいだけだから、皆できつことをやって盛り上げていく、終わった後は疲れ切っているのに何か楽しい、そんな練習を目指しています。」

### 男子関東医科リーグの賞状を手に。

技術向上に限らず、部員それぞれが目的を持って練習に参加している。そこで敢えてレベル分けをせず、上手な人が教えるがノックを出しているそう。

「先輩との交流を持ちたくて来る人もいたり、部員同士の人間関係が大切で来る人もいます。自分たちの目標を達成できる場を提供するのが、医バドの役目だと思っています。」

最後に、どんな部になりましたのか、うかがった。「皆が楽しく、好きなことが出来る部でありたい。バドミントン以外にも部企画など楽しい行事は色々あります。そういう企画を楽しみたい人は楽しめばいいし、もちろんバドミントンを楽しむのもいい。」



# 女子バスケットボール部 インカレ 堂々3位

第63回全日本大学バスケットボール総合選手権大会(以下インカレ)において、筑波大学女子が3位入賞した。優勝は早稲田大、準優勝は大阪人間科学大(以下、人科)だった。

本学は、昨春に行われた関東トーナメントで8位と惨敗。目標の日本一と自分たちの実力の差を思い知った。夏の練習はその差を埋めることに燃えた。結果、インカレ1月前の関東リーグでは1位、そのモチベーションのまま挑んだインカレでも、日本一の夢を叶えようと、チーム一丸となっていた。そして、第1シードから順当に勝ち上がり、準決勝で人科と対戦。善戦するもスコアは58・56。惜しくも敗れた。

「人科の選手は平均的に身長が高かった。また、ゾーンやマンツーマン等いろいろなディフェンスを取り入れてきて、自分たちのオフenseができていなかった。それが敗因です」。

と語ってくれたのは、現在の主将の淀野潮里選手(体育3年、茨城・土浦日大高)。終始競り合う展開となるも、あと一歩届かなかった。続く3位決定戦も接戦となった。相手は愛知学泉大。こちらは最後に本学がリードをとり、63・52で勝利した。

「リバウンド、ルーズボールの徹底ができた。苦しいときも我慢できたし、泥臭いプレーができた。最後はシュートを決め切れて、相手を引き寄せました」。

要所所で流れを引き戻す活躍をしたのは、優秀選手賞にも輝いた天野佳代子選手(体育4年、東京・成徳高)。「チームのエースとして毎試合、好不調の波無く、チームがつかない状況になったときに常に活躍していました。流れが悪いな、というときにシュートに行ってファウルをもくもくして、相手ボールを奪ってシュートしてくれたり、とすぐ頼りになりました」。

頼れる先輩も引退し、2月から新チームとしての練習を始める。

「今年はとも元気で明るいチームになると思います。目標は変わらず日本一。本当の強さを身につけて、先輩たちを超えていきたい」。

まずは日筑定期戦、そして関東トーナメントへ。新チームの活躍を見に、ぜひ試合会場へ足を運んでみては。(矢畑 佳)



種別	結果
男子バスケットボール	第63回全日本大学バスケットボール選手権大会 2位 筑波大 ● 68 76 ○ 天理大
女子バスケットボール	第63回全日本大学バスケットボール選手権大会 3位 筑波大 ○ 71 52 ○ 中部学院大 筑波大 ○ 77 53 ○ 山形大 筑波大 ○ 56 55 ○ 大阪人間科学大 筑波大 ○ 63 52 ○ 愛知学泉大 総合結果 第3位
柔道	第48回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 筑波大 ○ 22 19 ○ 東海大 筑波大 ○ 11 9 ○ 明治大 筑波大 ● 3 29 ○ 帝京大
卓球	第8回全日本学生選抜選手権男子予選リーグ (Aブロック) 2位 藤本光(体育4年) ● 2・3 ○ 張慧超(天理大) 第5回関東学生チームカップAブロック(リーグ戦1・2部) 筑波大男子Aチーム 第3位
男子サッカー	第85回関東大学サッカーリーグ戦 筑波大 ● 0 3 ○ 専修大 第60回全日本大学サッカー選手権大会 筑波大 ● 0 3 ○ 中京大
男子バレーボール	天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 筑波大 ○ 3 10 ○ 尼崎市立尼崎高 筑波大 ● 0 3 ○ サントリーサンパズ
剣道	第12回関東女子学生剣道新人大会 筑波大 ○ 3 11 ○ 東農大 筑波大 ○ 8 11 ○ 白鷲大 筑波大 ○ 10 11 ○ 早大 筑波大 ○ 12 2 ○ 国武大 筑波大 ● 2 13 ○ 日本大学 総合結果 ベスト4
ラグビー	第33回 関東大学ジュニア選手権大会 筑波大 ○ 35 19 ● 法政大

## アメフト部 2部昇格ならず 今年こそ

12月10日、大井第二球場で2011年度秋季リーグ戦の2部3部入替戦が行われ、アメリカンフットボール部EXCALIBURS(以下本学)は成蹊大学(以下成蹊大)と対戦した。昨年度、屈辱の3部降格を喫した本学は「2年で一部昇格」という目標を掲げ、3部リーグを戦い、5戦全勝で堂々のリーグ1位。今回の入替戦、成蹊大との試合に勝利すれば2期ぶりの2部復帰となる。

晴天の中行われた試合、1クォーター(以下Q)のうち先に制し、試合の主導権を握り、リズムを掴めない。逆に成蹊大にパスワークからタッチダウン(以下TD)とフィールドゴール(以下FG)を決められ、7点を先制される。だが2Qでは本学が好守備を見せ攻撃を止めるとランで敵陣へと詰め、QB上田選手(体育4年、京都・峰山高)のパスをWR松尾選手(体育4年、北海道・紋別北高)がエンドゾーンで見事キャッチしTD。更にトライフオーポイントも決め、8・7と逆転に成功。そのまま前半が終了し、8・7と本学リードで試合は後半戦へ。

3Qは一進一退の守備戦となり、あと一歩のところまで(湯地 遼)

「筑波に集うすべての人と価値ある経験を共有する」の大理念のもと、ほぼ全てを学生の手によって作りあげる大会。全国各地から約20大学が集まり、熱い試合を繰り広げます。試合だけでなく、totoなどの企画も盛りだくさん!是非春休みはフェスティバルに足を運び、大学トップクラスの試合を楽しみましょう!  
(寄稿/浦川太秀)

## 蹴球部 惜敗 関東リーグ 4位

第85回関東大学サッカーリーグ戦1部(以下、関東リーグ)が12月3日に最終節を迎えた。前年度優勝の蹴球部であったが、10勝6敗6分の4位でリーグを終えることになった。

関東リーグ前期は調子が良かった。中でも中央大学との試合では、前年度に新人王と得点王の個人賞2冠に輝いたFW赤崎秀平選手(体育2年、佐賀・佐賀東高校)が4得点と大爆発し、5・0と圧倒する。その後も神奈川大に4・0で勝ち、6勝2敗3分と首位で前期を折り返す。

後期に入っても最初の4試合を3勝1分とその勢いは衰えず、優勝は間違いなくかと思われた。ところが、10月29日に行われた中央大戦では前半を1・1で折り返すと、後半20分に来季から清水エスパルスへの入団が決まっている八反田康平選手(体育4年、鹿児島・鹿児島中央高)のこの日2つ目のアシストから瀧沼優司選手(体育3年、神奈川・桐光学園高)が得点する。さらにその1分後、FKから



上村選手(体育2年、静岡・磐田東高)が追加点を決め、1と試合を有利に進める。ところが後半40分に相手に得点を許すと、試合終了直前にはPKを決められ、3・3の同点で試合を終える。そしてこの試合を境に状況が一変する。嫌な流れはその後止めることは出来なかった。流通経済大には1・0で勝利するものの、優勝した専修大には3・0と完敗。残り6試合を1勝4敗1分と大きく負け越し、4位で関東リーグを終えることとなる。その後、12月18日に行われた全日本大学サッカー選手権大会(以下、インカレ)初戦では元Jリーガーが2人いる中京大に0・2で惜敗。今年度の本学の戦いは終わった。

前期調子が良かっただけに、後期の失速が悔やまれる。しかし、筑波大はまだ若いチームである。今シーズンの悔しさをバネに来シーズンこそは8年ぶり15回目の関東リーグ優勝と9年ぶり9回目のインカレ優勝を果たして欲しい。  
(田村俊和)



**3月13日(火) 21日(水) 開催**

蹴球部主催 第26回全国大学対抗サッカーフェスティバル

「筑波に集うすべての人と価値ある経験を共有する」の大理念のもと、ほぼ全てを学生の手によって作りあげる大会。全国各地から約20大学が集まり、熱い試合を繰り広げます。試合だけでなく、totoなどの企画も盛りだくさん!是非春休みはフェスティバルに足を運び、大学トップクラスの試合を楽しみましょう!  
(寄稿/浦川太秀)

①本学第1・第2サッカー場、セキショウ・チャレンジスタジアム、他にて開催!

詳しくは蹴球部公式HP  
<http://www.tsukuba-univ-fc.sakura.ne.jp/>

**編集後記**

今号から編集長を務めることになりました。大庭夏海です。一年間よろしくお願ひします。

つい先日年が明けて、お正月にラグビーを見に行ったり思ったら、もう2月、3月なのですね。あの地震からもうすぐ1年がたつてしまおうとは、日の流れは早いものです。さて、今年も体育会賞、卒業生特集号となりました。卒業生のみならず、おめでとうございます。これからも競技を続ける方、新たなことを始める方、それだとは思いますが、皆さんの未来にご多幸をお祈りいたしております。我が編集部からとくさん左の一覧から、編集者激減は明らかです。スポーツ観戦、新聞製作等に興味のある方はご連絡下さい。お待ちしております。

また今号より選手の現在の所属に加え、出身高校も記載することにしました。学生間の交流にお役にたかせたい。

**編集スタッフ**

◎編集長 大庭夏海(人文2年)

◎主務 矢畑佳(人文2年)

◎会計 三浦加奈絵(比文1年)

◎広報 湯地遼(人文2年)

◎有田和晃(シス情2年)

◎田村俊和(シス情2年)

◎本間詩織(体育4年)

◎斉藤千絵(比文4年)

◎萩尾奈緒香(社会4年)

◎明本彩美(比文3年)

◎上杉織美(日自3年)

◎小島菜菜美(資源3年)

◎小峰菜理菜(人文1年)

発行所/筑波大学体育会 (TEL.029-853-2589)

発行人/深山 大生

編集/筑波スポーツ編集部 [tsukusupo@hotmail.co.jp](mailto:tsukusupo@hotmail.co.jp)

責任者/大庭 夏海(編集長)